

## 浜松市障がい者自立支援協議会 南エリア連絡会

## 第3回全体会 会議録

1 開催日時 令和6年11月21日 午前10時00分から午前12時00分

2 開催場所 南行政センター 3階 大会議室

3 出席状況 ※敬称略

相談支援事業所はまかぜ

朝倉 美穂

浜松市浜松手をつなぐ育成会（障害者相談員）

伊藤 幸枝

浜松市社会福祉協議会

金沢 拓歩

新津地区社会福祉協議会

川嶋 利博

新津地区民生委員児童委員協議会

（欠席）

地域包括支援センター三和

下位 彰吾

好生会三方原病院

（欠席）

ワークショップくるみ

袴田 みや

天竜厚生会いとめ／ささえ

長谷川 純也

ドルチェ

古橋 誠

静岡県立浜松特別支援学校

山崎 かおる

事務局 南障がい者相談支援センター

大場 拓弥

古澤 則仁

岡崎 敏光

南社会福祉グループ

藤澤 英樹

小枝 信幸

オブザーバー 浜松市障がい者基幹相談支援センター

後藤 翔一朗

4 傍聴者 9名

5 議事内容

(1) 地区部会について

(2) 日中サービス支援型グループホーム中間報告について

(3) 当事者との意見交換のできる場について

(4) 南エリア連絡会の体制について

6 会議録作成者 南社会福祉グループ 小枝 信幸

7 記録の方法 発言者の要点記録

## 8 会議記録

- 1 開 会 司会：浜松市南障がい者相談支援センター 大場 拓弥
- 2 浜松市中央福祉事業所社会福祉課 藤澤専門監あいさつ
- 3 浜松市障がい者自立支援協議会について 小枝より報告  
専門部会（こども部会、就労部会、生活部会）の経過報告  
浜松市における地域生活支援拠点等の整備について  
<意見>
- ・生活部会の中の防災ワーキンググループ(以下WG)で個別避難計画の様式が簡素化しすぎて対象者や行動計画が不明瞭。
  - 現在、WGでは障害の特性など追加した様式を考えている。対象者約7,000人のうち重度障害者に絞っているが今後の課題。
  - ・WGの構成員には地域の方は入っているか？
  - 構成員には入っていないが、モデル作成には自治会や民生委員の意見を取り入れて協議している。
  - ・災害時要避難者は、申告制のため、必要な人が手を上げていない場合もあり有事の際には困る。考えてほしい。
  - ・個別避難計画作成後、有事の際に一人のケースを出すのに情報が多すぎる。緊急時用に簡素化し、作成する必要がある。
  - 避難行動が前提。安心情報シート作成など生死にかかわる事項を簡素化。
- 4 議 事 進行：ワークショップくるみ 袴田 みや
- (1) 地区部会について 岡崎より報告
- 地区社会福祉協議会長や浜松市民生委員児童委員協議会長にも参加頂き、地域の方々に事業所のことを知って頂く機会になった。
  - JAの駐車場を借りたことにより地域との交流も出来た。
- <意見>
- ・小学4年生の授業の一環で「福祉の仕事魅力発見セミナー」があり、施設として講座を開いている。そこでの体験もこどもにとっていい経験になる。
  - ・包括もPRに行ったが、なかなか受け入れてもらえず、年間行事が決まっているので年末または年度末にPRが必要と学校側に言われた。
- (2) 日中サービス支援型グループホーム中間報告の取り組みについて  
大場が説明。
- <意見>
- ・地域に開かれた運営をする意味で事業所母体が市内にないと苦勞する。そのために浜松市グループホーム地域連絡協議会への加盟を促す。
  - 市内の有識者や民生委員など地域の方を入れると良い。
  - ※はまみんを民生委員の方が届けてくれているが、事業所の中まで見る機会はないため、事務局が間に入りながら見学機会をつくっていく。

(3) 当事者との意見交換会について 古澤より説明

○コアメンバーとの打ち合わせを実施し名称を「フラワーミーティング」とする。

<意見>

・どのような方が参加するか？

→特に決まりはない。主に障がい者やその親が対象となる。

・有事の際に医療や薬についてどうなるのか不安。

(4) 南エリア連絡会の体制について 大場が説明

<質疑応答・意見>

・部会・ネットワーク会議の構成員には地域に事業所を入れた方が良い。

・企画の段階でも地域の事業所を入れていく方が良い。

・地区部会の圏域を包括と同じ圏域で行っているが参加者に偏りが出る。

→包括では横のつながりができているので補い合える。「顔見知りの関係」をモットーに事業を行っている。

○こどもについて

・地区により校長会やスクールソーシャルワーカーが構成員になっていて特別支援学級だけでなく、普通学校の支援級もあるので連携が必要。教員同士も交流が必要と感じている。

・公立の幼稚園などにも発達支援があり、南エリアは多いので協力が必要。

・特支高等部を卒業後の地域とのつながりがはまだできていない。

・卒業生だけでなく、在生も進路や就労に対して不安を感じているため、学校だけでなく、地域や事業所との連携も必要。

○ワーキングについて

・課題について焦点化していく。

・年齢が小さなうちから地域とのつながりをもつことができるとよい。

・児発利用者もここ数年増加の一途。親も不安でいる方が多い。

→こども医療関係者もエリア内にいるので参加を促す。

・ワーキングはこどもだけでなく、必要に応じて行うのか？

→イメージとしてワーキングは短期的。部会では中長期的に行う。

→その中にワーキングが入る。それにより構成員が増え、多くの方が携わることができる。地域の顔が見える支援が実現できる。

→事務局の仕事が増えるので部会の代表者中心に活動を託す。

5 その他 浜松市南障がい者相談支援センター 大場 拓弥

(1) 第4回全体会開催日程について

2月18日(木)10:00～南行政センター大会議室で行う。

(2) 障害者週間について

12月3日～9日まで南行政センター市民ホールにて8事業所が展示を行うため、皆さんへの周知をお願いする。また、フラワーミーティングのチラシ

も置く。

6 閉 会